

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

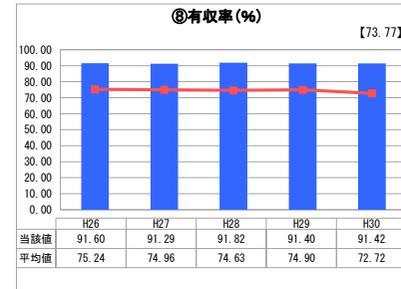
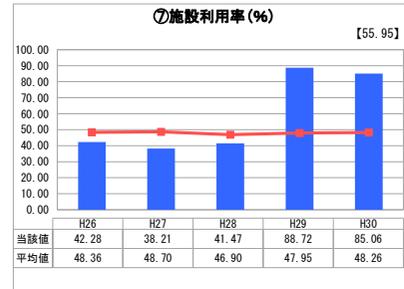
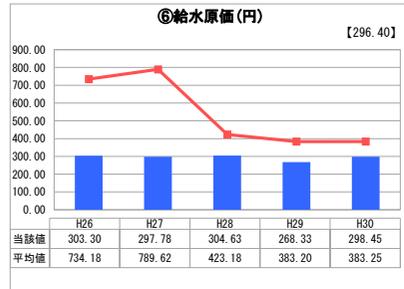
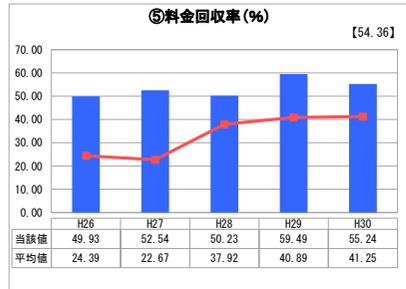
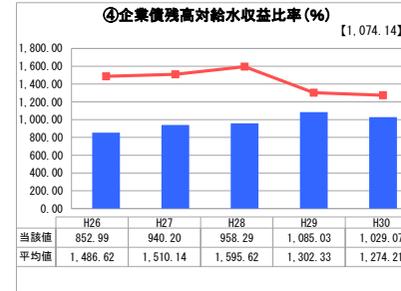
奈良県 上北山村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり客単料金(円)	
-	該当数値なし	100.00	2,296	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
500	274.22	1.82
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
495	3.34	148.20

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

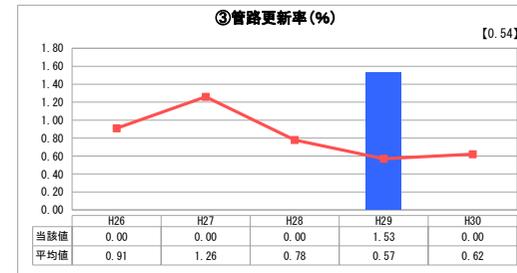
### 1. 経営の健全性・効率性について

- 【収益的収支比率】全国平均や類似団体平均と比較すると下回っている。総収益においては前年度と比較すると営業収益の減により、一般会計からの繰入が増え、増加している。総費用においても経路経理事業の営業費用や地方債の償還金の増により増加している。前年度より数値は減少となったが、100%により近づけるよう、引き続き経営改善に向け検討が必要である。
- 【企業債務高対給水収益比率】全国平均や類似団体平均と比較すると下回っている。地方債残高についても、平成18年度から平成29年度まで借入がなかったため、減少しているが、施設の老朽化に伴い、平成27年度から毎年度借入が行われていることから、数値は上昇していくものと思われる。料金収入は年々減少傾向にあるため今後は供給単価の見直しなど給水収益の改善が必要である。
- 【料金回収率】全国平均や類似団体平均と比較すると上回っている。しかしながら、経営に必要な経費を給水収益で賄えている状況とはなっていないため、料金収入の見直し等検討が必要である。
- 【給水原価】前年度と比べ、総費用額と年間給水収益については減少しているが、地方債の償還金については数値が上昇している。今後は、施設の老朽化に伴い、借入が行われることにより償還金の増加も考えられるため、勘目に注意をする必要がある。
- 【施設利用率】全国平均や類似団体平均を上回っている。しかし、前年度と比較すると数値は減少しており、最大稼働率についても67.73%と下がっている。今後、効率的な運営となるよう検討が必要である。
- 【有収率】全国平均や類似団体平均を上回っており、平成22年度以降90%以上を維持しているため、施設の稼働状況はほぼ効率性であると判断する。

### 2. 老朽化の状況について

平成23年度の大規模な管路更新以降、更新されていなかったが、平成29年度に一部、導水管の布設替えを行った。しかしながら、更新ができていない管路もあるため、今後も漏水対策等による計画的な管路更新が必要である。

## 2. 老朽化の状況



### 全体総括

前年度と比較すると、料金収入の減少、地方債償還金の増加等がみられる。今後においても人口減少に伴う料金収入の減少、維持費の増加及び整備に伴う地方債の借入れによる償還金の上昇が見込まれるため、平成30年度に策定した経営戦略を基に、料金の見直しや施設整備の適正化、費用削減等の検討を行う。